

全学連 ドイツ訪問速報 No.8

全学連国際部 松室しをり(intl-solidarity@hotmail.co.jp 050-3036-6464)

ドイツの反原発団体と熱く交流！ 「原発で儲けている連中と 人民全体との闘いです」

<8月13日、14日>

☆国際討論会が大成功！

ドイツの様々な仲間達に加え、リンケ・ツァイトング編集長やアルゼンチン労働運動活動家の方も交え、国際討論会が行われました。現在の世界恐慌や、その中での世界の労働者、青年・学生の闘いなど、議論は盛り上がっていきます。日本の闘いの歴史も非常に関心を持って議論され、動労千葉や全学連に関しても多くの質問が出されました。今回の討論会で、「新しいインターナショナルを建設したい！」「国境を越えた団結をつくりたい！」という思いを強く共有することが出来ました。



13日、14日、団結の家で国際討論会。白熱した議論が交わされ、さらなる団結が生まれました！

<8月15日>

☆ドイツの反原発団体と結合！

この日は廃棄物の中間処分場で、最終処分場にもされようとしているゴルレーベンを訪問。そこで最終処分場に反対し長年闘っているグループとの交流をついに実現！ この闘いは1980年前後以来の闘いで、ドイツの反原発闘争としてはかなり有名なものです。その中心になって闘ってきたグループと熱く交流することができました！

会ってすぐに連れて行ってくれたところが、高・低レベル廃棄物の中間処分場。ここにはすでに102本の高レベル廃棄物が密閉もされない建物に保管され、「それによって放射能が周りに拡散しているんですよ」という状態です。

全学連第72回定期全国大会

◇全原発の停止・廃炉！
◇「教育の民営化」と対決し、
学生自治会を甦らせよう！

【日時】

9月9日(金)～10日(土)

9日 午前9時半 開会

【会場】

9月9日 文京区民センター

(東京都文京区本郷4-15-14)

9月10日 浜町区民館

(東京都中央区日本橋浜町3-7-1)

次に車でいったところは、最終処分場の研究を行っている施設で、「法の裏づけがないのに99%できてしまっている。違法だ」とのこと。

また、この闘いのためにここに移住してきた方とも話が出来ました。そういう人は結構多いそうです。常に10人程度の人が住み込んで闘い、いざ闘争となればドイツや他の国々からもたくさん結集し、昨年11月は5万人も集まったそうです！

1980年には彼らの作った団結小屋を、警察と国境警備隊がじつに凶暴に、暴力的に破壊し、闘いの破壊を狙ってきたそうです。しかし闘いは潰されるところか、今も搬入阻止闘争を実力で闘いぬいています！ 高レベル廃棄物を電車で搬入



森の中のベンチに移動し、さらに交流を深めました。

してくるのに対し、線路をはずしてしまう、線路の下の枕木や石を取り除いてしまう、線路に座り込むといったことも。また、弁護士や原発に批判的な科学者、マスコミも闘いに参加しているそうです。

原発廃止に向けても、「原発は飛行機を飛ばしておいて、着陸するところがないのと同じです」「労働組合は組織された勢力ですから、味方につけなきゃね」「原発で儲けている連中と人民全体との闘いです」と語ってくれました。また、「最終処分場に反対って、どうすればいいのか」という人には、「まず原発を止めることだよ。そうして廃棄物がどんどんつくられる現実をまずストップさせるんだ」と答えているそうです。

こちらからも、日本のウソだらけの原発政策や「原発村」について話すと、「ドイツでも全く同じです」「安いというの、最終処分場や助成金の費用も入れていないんです。まったくウソだ！」とこたえてくれました。

福島のことにも話は及び、「福島にはまだ人が住んでいるんですか？」という質問も。労働者には仕事があり、農民には土地があるから避難も簡単ではないという話をすると納得してくれました。「たしかに農民は土地をもっていますからね。ここでも同じですよ。だから、ここの農民はみんな最終処分場計画には反対なんです」と。農民、労働者をはじめ、様々な人が団結して共に反対闘争を闘いぬく、日本の三里塚闘争のような闘いですね！

11月には高レベル廃棄物搬入阻止闘争が行われるそうです。「全ドイツから来ますし、外国からも来ます。老いも若きも、労働者も農民も学生も教会の人も」と誘っていただきました。私達も、11月集会の話をさせてもらい、最後は有機栽培で作ったジュースをご馳走になりました。

8月15日、中間処分場にて。



彼らの闘いのシンボルは黄色い板で作った×マーク。ポーズをとるときは、腕で×マークをつくります。

して、ドイツの仲間と共に、熱く交流してきました！

ドイツの仲間と共に、熱く交流してきました！

